

博士課程後期

1 募集専修科目と担当者及び研究内容の概要

専修科目	科目名	単位	担当者	研究内容	
研 究 指 導 科 目	経済学史	経済学史特別研究 A B C D E F	各4	教授 博士(経済学) 山崎好裕	経済学史の論文には、理論の発展史についての広く深い知識と過去の論文への詳細な読解、洞察力が必要になります。自分の研究分野に関して、原典や多くの論文を読んでもらい、博士論文に向けた研究を進めていきます。また、学説史研究を通して得た理論への知識を現実の経済分析に応用するために、計量分析の実際についても学んで、データを使った分析を行っていただきます。英語論文の作成やジャーナルへの投稿についても指導します。
	社会経済学	社会経済学特別研究 A B C D E F	各4	教授 姜文源	この講義では毎年1本の論文を書くことを目標とする。論文の研究課題は受講生が決めることを原則とする。行動経済学、ニューローエコノミクス、さらには学際的研究のブームによって社会経済学の内容やアプローチも急激に変化している。が、この講義では限定合理性を前提とした効率モデルの枠のなかで受講生の研究課題を取り上げていき、論文を完成させることを目標としている。即ち、講義での研究は心理学、社会学、人類学で進められている最新の研究課題をどのようにして経済学の限定合理性モデルの枠のなかで再定義でき、このような方法論的転換を通じて、どのような新しい社会経済理解および展望が得られるか、に関するものとなる。受講生の研究に関しては、講義を通じて書いた論文を学術ジャーナルに発表することはもちろん、研究で得られた結果が社会や人類に貢献できる内容であることが要求される。
	経済数学	経済数学特別研究 A B C D E F	各4	教授 Ph.D. 藤本浩明	経済数学は、経済学の一分野ではない。慎重に単純化したモデルを用いて、複雑な経済現象の因果関係を分析し、その中に潜む法則を見出すための科学的方法のひとつである。ここで、科学的とは、広辞苑によると、体系的であり、経験的に実証可能な知識のことを言う。もちろん、経済モデルが数学的である必要はないが、数学的であれば、モデルは変数とパラメータからなる方程式で表現されるため、適切な計算をするだけで、科学的な結論を得ることができる。そこで、本特別研究では、例えば、ホッグ著「数理統計学導論(第5版)」高等教育出版の教科書などを通じて、ベイズ統計学を修得するとともに、公平な税制ならびに所得格差の不平等尺度およびリスク管理に応用することを考える。
	社会工学 〔平成30年度は 募集しない〕	社会工学特別研究 A B C D E F	各4	教授 博士(工学) 齋藤参郎	消費者行動分析にもとづいた、まちづくりマーケティング研究のなかからテーマを選択し、博士論文の指導をおこなう。用いる方法はおもに、消費者行動調査とその分析である。東アジアの大都市での消費者行動調査も実施している。単純集計、クロス集計から、ハフモデルや回遊行動の分析モデルの構築、データマイニングをもちいたCRMの研究まで、様々な方法の開発と適用をおこなっている。研究内容の詳細については、 http://www.qbic.fukuoka-u.ac.jp
	都市モデル解析 〔平成30年度は 春季のみ募集する〕	都市モデル解析特別研究 A B C D E F	各4	教授 博士(工学) 李明哲	本特別研究では、幅広い社会・経済問題のなかの一つの課題に焦点をあて、応用数理やオペレーションズ・リサーチの視点から行う、モデル構築の手法とモデル解析の手法を適用して、特定された課題を理論的に解析し、その本質を探るとともに、効率化という視点から、捉えた問題の改善あるいは解決を図ります。最後は、それをもとに博士論文を仕上げていきます。
	オペレーションズ ・リサーチ 〔平成30年度は 募集しない〕	オペレーションズ・リサーチ 特別研究 A B C D E F	各4	教授 博士(工学) 米田清	The basic conceptual tool I offer is the inverse problem formalism: given decision variables which are related to the outcome variables of interest, we compute the values of the decision variables which will bring the most satisfactory outcomes. The problem is solved by methods which may be considered improved versions of the weighted least squares. My present interest is in applications involving discrete choices. Computational tools are chosen to be suitable for people who may in the future work under tight resource constraints such as in emergency situations, developing countries, or small organizations.
	ゲーム理論	ゲーム理論特別研究 A B C D E F	各4	教授 博士(経済学) 西原宏	この講義では、非協力ゲーム理論の基礎または経済学への応用の中から研究テーマを選び、理論研究の範囲内で研究活動を行います。ゲーム理論の基礎的な知識や解析方法は、すでに修得してあることを前提とします。テーマの決定後は、文献の精読、問題の発見、モデルの構築と改良、解析、結果の吟味という流れで研究活動を行います。ある程度の結果が得られた後は、学会発表を積極的に利用して論文としての完成度を高めていきます。

専修科目	科目名	単位	担当者	研究内容
研究指導科目	経済時系列分析 〔平成30年度は募集しない〕	各4	教授 D.Phil. 栗田 高光	この特別研究の授業では、共和分をはじめとした経済時系列分析の手法を利用した応用研究について、論文作成のための指導をしていきます。なお、計量経済学や線形代数に関する全般的な知識は習得済みであることを授業の前提とします。授業では、まず各自が研究テーマを選定し、そのテーマに沿った代表的な論文や書籍を輪読していきます。その後、各自が、分析に必要な時系列データを収集しその特性を調べるとともに、分析のためのコンピュータ・プログラム等を作成していきます。こうした準備が整った段階で、本格的な分析作業に入っていきます。主要な分析結果が出た後、それを整理して学会等で発表し、そこでのコメント等を踏まえて分析をさらに進めます。その後、最終的な結果を論文にまとめていきます。
	都市システム解析	各4	教授 博士(経済学) 梶井 昌邦	本講義では、(1)地域や都市に関するデータを解析するための統計モデリングやデータマイニング手法の開発を行い、(2)開発した統計モデルや手法を実際のデータへ適用し、一般法則を見だし、積み上げていくとともに、(3)それらにもとづき政策や戦略を議論する、といった形で研究指導を行っていく。受講生は、このような「根拠(エビデンス)にもとづく政策科学研究」から各自、具体的な研究課題を設け、学会発表や学術雑誌への投稿を積極的に行いながら学位論文を作成する。
	米中日経済分析	各4	教授 博士(経済学) 万 軍 民	今日世界における経済問題、特にアメリカ、中国、日本における経済問題に焦点を当てて研究する。具体的には以下の角度からアプローチする。 1) 家計行動の理論および実証分析を行う。たとえば、消費貯蓄、教育と人的資本蓄積、労働供給などが考えられる。 2) 企業行動の理論および実証分析を行なう。例えば、企業の投資行動、融資行動、ガバナンスと内部昇進、雇用、産業組織などが考えられる。 3) 政府の理論と実証分析を行なう。例えば、効率かつ公平な徴税、脱税問題、公的支出のあり方、公共財の最適供給、所得再分配などが考えられる。 4) 金融の理論および実証分析を行なう。例えば、バブルの生成と予防、バブルのハードとソフトランディング、銀行預金と貸出、株式市場、公債市場、為替レートの決定要因などが考えられる。 受講生は上記の内容からを1つ選び、査読付国際誌への公開を目指して、学術論文を作成する。研究手法は純粋な数理モデルに基づいてもいいし、経済データを用いて計量分析してもよい。また、ジョブマーケットに出るための関連準備をする。 研究内容の詳細については指導教員の公式WEBを参考されたい。 http://www.econ.fukuoka-u.ac.jp/~wan/
	社会的選択理論	各4	教授 博士(経済学) 佐藤 伸	本特別研究では、社会的選択理論とそれに関連するメカニズムデザインやマーケットデザインといった分野における最近の論文を読みながら自らの問題意識・研究テーマを明確にし、理論分析を通して新しい結果を得、それを英語の論文としてまとめることを目標とします。社会的選択理論とその関連分野においては、複数の嗜好を何らかの方法で集約する際の望ましい方法の設計可能性、あるいは実際に良く知られている方法の性質を調べます。社会的選択理論等に関する予備知識は特に必要ありませんが、英語の読み書きが自由にできることと、数学的(論理的)思考力を備えていることは前提とします。

2 その他の科目

特 修 科 目															
科 目 名					単位	科 目 名					単位				
経	済	学	特	論	I	A	2	経	済	学	特	論	IV	A	2
経	済	学	特	論	I	B	2	経	済	学	特	論	IV	B	2
経	済	学	特	論	II	A	2	経	済	学	特	論	V	A	2
経	済	学	特	論	II	B	2	経	済	学	特	論	V	B	2
経	済	学	特	論	III	A	2								
経	済	学	特	論	III	B	2								

3 履修方法

- 1 学習の標準修業年限は3年とし、次の定める方法により、履修しなければならない。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 学生は、一つの専修部門を選定し、この研究指導科目を専修科目として、24単位を修得しなければならない。
- 3 専修部門の研究指導担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導に従うものとする。
- 4 指導教員が、当該学生の研究上特に必要と認めた場合には、次のとおりとする。
 - (1) 学生は、選定した専修部門以外の研究指導科目及び特修科目を履修することができる。ただし、この修得単位は、修了要件単位数に参入しない。
 - (2) 学生は、博士課程前期における特講講義及び特修科目を受講することができる。
- 5 博士の学位論文は、専修部門について提出するものとする。